



# ぼらんていあ通信

5月号  
通巻 No.462

発行 / NPO法人 相模原ボランティア協会 2020年5月26日  
連絡所 〒252-0236 相模原市中央区富士見 6-1-20 あじさい会館・中央ボランティアセンター内  
TEL/FAX: 042-759-7982 Eメール: [sagamiva@feel.ocn.ne.jp](mailto:sagamiva@feel.ocn.ne.jp) HPアドレス: <http://sagamiva.info/>

## 緊急事態宣言の延長と施設の休止

会長・高橋功

皆さん、元気でお過ごしのことと思います。政府の緊急事態宣言は5月31日まで延長され、相模原市の施設の貸出中止も8月31日迄となりました。相模原市の感染者数は77名(5月8日発表)で5月の感染者は5月12日現在3名、医療関係者の努力と市民の自制で第一波は収束に向かっていると思われれます。

4月7日の緊急事態宣言後のボランティア協会は、事務所を閉鎖し、H.C活動や傾聴活動は中止しました。その間の対応は、

- ・事務所 週2回面副会長が当番で出て、連絡事項などを確認
- ・理事会 4月書面審議、5月は中止
- ・ほら通 4月、5月号をほら通委員が手分けして印刷、発送

・通常総会 議決権行使書を提出していただく形での開催  
となりました。

通常総会開催については、会員の皆様のご協力いただいておりますが、この状況です。

緊急事態宣言解除以降の協会の活動については、まずは事務所の再開、H.Cボランティア活動、傾聴ボランティアについては新規申し込みや現状の利用者からの要請もあらためて再開していきたいと思っております。但し、理事会や各委員会、ほら通の作業などは会室の解除次第再開してきたいと思っております。これから第二波、第三波があると言われて

いますので、今迄通り人ごみにはいかない、手洗い、人ごみではマスクを付ける等やっつけに行けばPCR等の検査をしていないので不安はありませんが、コロナには感染しないと思ってもどうしても頭張りまじしょう。元気に会えることを楽しみにしています。

《 今月のイラスト  
…寝る前の楽しいひと時♪ 》



### H.C運行および事務局再開について

緊急事態宣言が来週早々に解除される見通しとなりました。ボランティア協会も6月1日からH.C運行および事務局の再開に向けて準備を進めています。また、会員登録録更新も6月1日以降から事務局での受付が可能となります。よろしくお願いたします。  
(事務局の23)

### 通常総会の報告

2020年度の通常総会を次の通り開催しました。新型コロナウイルス感染症予防のため会員の皆様には書面議決書提出での参加をお願いしました。ご理解と協力をいただきありがとうございました。

日時 5月22日(金) 午後1時～2時  
会場 あじさい連絡所  
出席者数 83名

(ごち議決権行使者80名)

- 議事 ①事業報告 ②会計報告
  - ③事業計画案 ④予算案
- 各議題について満場一致で承認されましたことを報告致します。

(会長・高橋功)  
※5月理事会及び各委員会が中止となっております。「ほら通」は広報委員会・ほら通部会の努力と工夫で発行していただいております。何かお気づきのことがありましたらぜひご連絡所まで電話(☎)や電対(☎)かFAXでお知らせください。(事務局担当・小野)

### お知らせ

…今月のほら通について  
今月のほら通について通信も、会員の皆さまのみの発行とさせていただきます。発行作業等は、テレワークで頑張っております。

(広報委員会ほら通担当)



緊急事態宣言が施行されている今、ボランティア協会は活動を中止しています。そんな状況下での、相模原市社会福祉協議会での対応や、市民ボランティアさんの様子などを、ボランティア協会理事の大貫さんに伺ってみました。



緊急事態宣言下のボランティアセンター

相模原市社会福祉協議会

福祉推進課 市民活動係 大貫 栄



このような状況に陥るとは想像もしていませんでしたが、まず、ボランティア活動を通じて新型コロナウイルスの媒介者、感染者になってしまったり回避しなければなりませんので、感染者数が減少したとは言え、今はべっと我慢して、いるかバンク登録者のボランティア活動はお休みの対応としています。なかには「何かできることはないですか?」と連絡をくださるボランティアさんもおられ、そのお気持ち嬉しく、市民の底力を感じます。いるかバンク通信等でフォローしていきたいと思えます。

ボランティア活動室等の貸室利用も休止中で、総会等の時期と重なりご迷惑をおかけしていますが、書面審議やオンラインを駆使するなど工夫していただいています。ゴールデンウィーク明けには市施設等の休止期間が当初の5月13日から8月31日(一)まで延長になってしまいました。ただし、ボランティアセンター窓口開設時は通常に戻っていますので、車いす貸出し、相談対応等は可能です。声のみの相談ではありますが、少しでもホッとしていただきたいと思います。

コロナ後は、働き方や人との距離感などが変わっ

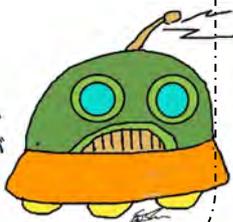
てゆくものと予想されますが、合理的に改善されること、今まで以上に多様性を認め合う思いやりやつながりが増え、それがバランス良く機能すれば、変化をそう恐れなくとも、ときます。埋もれがちな声を拾い、みんなの課題として解決策を考えるボランティアセンターの役割がますます大事になってくると思います。子ども食堂などの居場所づくりに取り組み団体の中には、今までのつながりを大切に考え、休校中の子どもや生活困窮世帯に向け、お弁当の提供や行き場を失った食材を届ける活動を細心の注意を払いながら取り組んでいる方達もおられます。ボランティアセンターはそのような情報の発信や相談援助を通じ、制限のある中でも、力を蓄えたり計画する方々を支援していきます。

ともあれ、焦らず無理せず、医療従事者やライブラインを支えてくれる方々に感謝しつつ、全世界のコロナ禍が一日も早く収束することを願ってやみません。

6月の記念日は? 小倉義男

6月24日、UFO 記念日です。1947年のこの日、アメリカの実業家ケネス・アーノルドがワシントン州レニアサン付近で強い閃光を目撃。これが初の UFO の目撃談とされていることから、記念日となったそうです。

つい先日もNASA が UFO の写真を公開したり、米軍に大真面目に宇宙軍が創設されたり、本当に UFO は飛んでるのかも。。



小倉画

このマークは?

ヘルプマークです。義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、東京都が作成したマークです。



神奈川県でも平成29年3月からこのマークを導入し、東京都と連携して普及に取り組んでいます。このヘルプマークは、各市町村の障がい福祉の窓口などで配布しています。

\*ヘルプマークをつけている方を見かけたらこんな配慮を!

電車・バスの中で席を譲る、駅や商業施設等では声掛けを、また災害時における安全避難の支援など。

クイズに挑戦!

- ①変わった読み方をします。なんと読むかな?
- ア 霜降
- イ 小晦日
- ウ 川曲
- エ 御老成

②六埋め漢字クイズにもチャレンジを!





**ボランティア協会の年表を見てみよう！**



人との接触を避けるために家に閉じこもりがちな昨今、協会の年表を見てみましょう。何が見えてきますか？

- 1979年度**：前身である「ハンディキャブ相模原市民の会」発足。欽ちゃんの24時間テレビからいただいたハンディキャブ1号車が運行開始！
- 1981年度**：相模原ボランティア協会発足。設立総会（6月28日）。「ぼら通」創刊。ボランティア養成講座開始（点訳、録音、拡大、手話、肢体、精薄者、老人、障害児の8コース）
- 1982年度**：障がい者団体のハンディフェスティバル開催に協力
- 1983年度**：「なかよしクリスマス会」を始めた。クローバー（障害児者への対応）、人参の会（視覚障害者とボランティアの料理の会）などが新たに誕生
- 1984年度**：障害者との新春ボウリング大会を始める。ボラ協のシンボルマーク決定「心」
- 1985年度**：ハンディキャブを南分室にも配置し、翌年窓口も南に設置
- 1991年度**：10周年記念のつどい、記念誌発行、イルカコンサート開催
- 1996年度**：地震に備えるボランティアグループ誕生。1999年度に相模原防災ボランティアネットワークが設立され、ボラ協も加入
- 2001年度**：設立20周年記念事業開催「真理ヨシコひとりミュージカル」、ボランティアのつどい（7分科会）、記念パーティー、記念誌発行。10月神奈川県知事より社会福祉事業功労者表彰授与
- 2002年度**：ほかほかかられあいフェスタ2002として秋のフェスタを一本化
- 2003年度**：NPO法人化総会開催、認証通知を受け、特定非営利活動法人設立登記
- 2005年度**：国土交通省関東運輸局神奈川運輸支局長から自家用自動車有償運送許可を得る
- 2007年度**：ボランティア情報誌わくわく（春号）創刊（以来48号に至る）
- 2011年度**：30周年記念誌発行、30周年記念イルカコンサート／30周年記念パーティー
- 2012年度**：ボランティア入門講座として傾聴ボランティア講座を初めて開催
- 2013年度**：住まい探しサポーター活動への参加、認定NPO法人の認証取得、就労困難な方々への社会参加の機会作りとして、ぼら通発送作業を開始
- 2014年度**：財政改善方策を実施するため、南連絡所を閉鎖し、あじさいへの統合実施  
傾聴活動の試行的開始、協会での活動実施を目指して傾聴活動入門講座を開催  
ぼらんていあ通信400号発行
- 2015年度**：傾聴活動を本格的に開始。福祉有償運送事業にセダン方式導入
- 2017年度**：委員会の組織変更、新ホームページ開設（URLを変更）
- 2018年度**：認定NPO法人認証の更新が行われた。
- 2019年度**：ハンディキャブ運転における安全確保のために運転ボランティアの定年制を始めると同時に、初年度会費減免制度を採り入れ入会しやすい会員制度とした  
台風19号による市内での被害も大きく、ほかほかかられあいフェスタも全面中止となった
- 2020年度**：新型コロナウイルス感染対策によって多くの事業が中止のやむなしに至っている



以上、字数の関係で簡単にまとめてみました。もっともっと多くのことを掲載したいのですが、まあ今日はこのくらいにしましょう。これらを見てみますと、協会も時代の状況の影響をしっかりと受けてきたことがわかります。そして、歴史を貫き通しているものは一体何でしょうか？ それは「協会らしさの追求」ということだと思います。

創立時の理念である、地域の人々と一緒に「創り出す福祉」、「市民が主体となる福祉」を大切にしながら、変化を成し遂げてきた私たちの姿があります。これからも、わたしたちの向かうべき方向を見定めながら、手を携えて、ともに歩いていきましょう。

西本 敬

